

第2回 東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

議事録

日時 令和元年10月23日（水）
午後2時から午後4時半まで
場所 豊橋市役所4階 東41会議室

■議 事

1. 第1期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証及び第2期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について
2. その他

■発言要旨

発言者	要旨
1-1. 第1期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について	
高橋委員	・「魅力あふれる地域をつくる」の数値目標「東三河の観光入込客数」の出典元はなにか。
事務局	・出典は愛知県観光レクリエーション利用者統計。県内市町村、施設ごとに数値がでており、それを積上げた数。 ・安彦委員から観光入込客数の信頼度について指摘があったが、市町村の総合戦略でも観光入込客数を数値目標に使っていること、市町村と広域連合の施策を併せて東三河の人口を増やそうとする戦略であることから、今後も数値目標として使う可能性はある。
安彦委員	・観光入込客数は根拠がハッキリしていない。とりわけイベントはいい加減な数字という印象。 ・地域内で動いている数も含まれるものではなく、地域外から来る数が出せるものかというのではないかと。 ・DMOのKPI設定もだが、根拠がハッキリとし、経済効果など実感に結びつくような数値だということと思う。
鈴木（照）委員	・「東三河の認知度の向上を図ります」とあるが、なにをもって認知度になるのか知りたい。
事務局	・認知度は「東三河が日本のどのエリアか知っています

	か？」という質問に対し、「正確にわかる」「ある程度わかる」と回答があったもの。調査ではその他に、「知っている市町村は？」「知っている特産品は」などを聞いている。
鈴木（照）委員	・「なにをPRした結果、認知度が上がった」という分析ができるといいと思う。
西村委員	・物産展などで感じることは、東三河エリアを知らない人が多い。「〇〇（場所）の〇〇（モノ）です」と背景を伝え、相手に伝わりやすい。物産展ではテーマ、地名、特徴をうたうことを意識している。
事務局	・今後の物産展の展開について、愛知県内近郊で続けていくことをどう思うか。
伊東委員	・なぜ静岡県ではなく愛知県で開催しているのか。 ・中日新聞の読者でいうと、浜松市や湖西市といった県境の人でも東三河版を読んでいる。また、豊橋の人が志都呂のイオンに行っていることなどを考えると、静岡方面への展開がいいのではないか。
西村委員	・今回のイオン岡崎南店のケースで考えると、岡崎の人たちは名古屋の方向を向いている傾向にある。東三河は近くにあるが、見ていないという感じがするため、見てもらう意味では岡崎での開催も意味があると思う。 ・イオンでの実績があれば、他の商業施設でも展開がしやすいと思う。静岡県での開催もありだと思う。
1－2. 第2期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について 基本目標① 魅力あふれる地域をつくる、基本目標② 活力ある地域をつくる	
事務局	・DMOの位置付けを「②活力ある地域をつくる」から「①魅力あふれる地域をつくる」に変えたことについて伺いたい。
高橋委員	・DMOは「いかに稼ぐか」である。消費者が東三河になにを求めるか、なにを期待するかを、DMOでしっかり考えていく必要がある。情報分析、マーケティングが出来る専門人材、リーダーシップをもちネットワークや経営感覚がある人も必要だと思う。研究会のなかで、体制についてよく検討していきたい。 ・全国の事例をみると、観光協会をDMO法人にする事例が多く、人材の定着やノウハウが育たないという課題がある。 ・PRポスターやICTを活用した情報発信は成功している

	と思う。第2期で引き続き取り組んでいくことか疑問を感じる。例えば外国人に特化し、多言語化や外国人に向けた情報発信など、今までやりきれていないことに取り組んでほしい。
安彦委員	・奥三河DMOで、どういった奥三河で在りたいかを検討し、目指すところ（okumikawaAwake）を決めた。 ・東三河DMOではK P I の設定が重要になる。どういったK P I を設定し、どのようにデータ収集・分析しながら次に繋げていくのか、どのような東三河にしたいのかを考えることがポイントだと思う。
事務局	・分析し、稼げるDOMにするには人材もお金もいる。大きな問題ではあるが、研究会でよく検討していきたい。 ・DMOでの研究が、ブランドショップやPRに繋がっていくと思う。ブランドショップも、プロモーションの方法の1つとして挑戦したい。
松井会長	・物産展とブランドショップ位置付けについて教えてほしい。
事務局	・物産展は生産者の販路拡大を目的としている。ブランドショップも販路拡大が含まれるため、事業としては繋がっている。 ・ブランドショップはモノを置くだけではなく、魅力を伝えるプロモーションの場としても使っていきたい。
伊東委員	・東三河と東京で1番繋がりのある場所にブランドショップを出せばいいと思う。人が多い東京で「東三河」という看板を見せるだけでも、知ってくれる人が増えるのではないかな。 ・知名度が低い分、関心をもつ人がいる。露出を増やし、知名度を高めていくことは良いと思う。
事務局	・東京と豊橋を結ぶ高速バスのある中野、中央沿線あたりを考えている。
鈴木（康）委員	・知名度でいうと「東三河」と聞いてもピンとこない人が多いと思う。歴史好きや鉄ちゃん（飯田線）で既に知っている人や1度来てくれたことのある人へ、リピーターになるようなPR、もう1度来たいと思わせるPRができるのではないかな。 ・大きなことでなくても、小さなことで印象は変わる。いい印象を残す地域であってほしい。
伊東委員	・リニア新幹線など交通アクセスに関することは記載しない

	のか。
事務局	・ 広域連合ができる業務は、市町村ではなく広域でやることにより効果がある業務に限られている。
松井会長	・ リニアや新幹線（ひかり）、三遠南信道などに関する事業は、個別の市町村単位で動いている。 ・ 「ブランドショップ」はモノを売るイメージがあるため、名称を変えたらどうか。
事務局	・ 名称については検討の余地があるが、議会においても以前からブランドショップで説明しており、内容で理解している状況である。
基本目標③ 「ひと」が流入し定着する地域をつくる	
高橋委員	・ 東三河の大学生に、就職の際に関心のあることなどについてアンケートをとった。職種をまだ決めていない学生、中小企業への就職も考えている学生に対して、東三河の企業をPRするアプローチを考える必要があるのではないか。 ・ モグジョブ等の気軽に企業と関われる機会も大事だが、学生は企業との密な関係や、もっと深くまで企業のことを知りたいと思っているはず。学生と東三河の企業を結ぶインターンシップのような事業ができるといいのではないかな。
松井会長	・ 20代女性の減少が最も多い。就職や結婚で転出してしまいう。住めばいいところだと分かってもらえるが、なかなか魅力が伝わらない。
安彦委員	・ 企業の社員研修や福利厚生などで、奥三河を使ってほしいという話をしていく予定である。大学にも奥三河を紹介し、来訪に結び付けたいと思っている。
事務局	・ 基本目標③では、若い人たちをどのように東三河の企業に就職してもらい定着させるか、基本目標②では、地域の人材育成として、既存の企業の人たちを育てようと考えている。
安彦委員	・ 大学生に東三河のことを伝えるにも、その人自身が東三河のことをよく知らないかもしれない。
松井会長	・ 小中学校の先生も、東三河にある企業のことを知らない。出前授業やビジネスパークで企業の紹介をしている。サイエンスクリエイティブの事業もふくめ、広域的に展開していくのであれば、実態を知ったうえで利用してほしい。 ・ アンケート等で、「東三河に住むことを考える学生」「中小企業への就職を考える学生」はいるという結果でも、実態は違う。合同企業説明会など学生が来ない。

	・広域連合には、東三河に住むことの魅力を発信してほしい。企業PRは企業の責任で行う。
事務局	・仕事は豊橋市でも、新城市、奥三河で住むことができることもPRしていきたいと思っている。
西村委員	・サイエンスクリエイトがツアーをやっている。産業観光の要素を含めたもの（工場見学、社員食堂の体験）や、まじカフェも「まだ決めていない人向け」「〇〇向け」などやってはどうか。
高橋委員	・全国的にも問題になっている事業継承、廃業は総合戦略のテーマになるのか。
事務局	・産業振興という視点ではあるが、市町村、商工会議所など連携して行う必要がある分野であると思う。
松井会長	・活力ある地域をつくるというテーマでは絡むが、広域連合の業務ではないと思う。 ・まじカフェとモグジョブの違いに「学生が企業を選べるか、選べないか」がある。企業側は自社の強みを書き、学生はその強みだけを見て参加する。会って初めてその企業を知る。 ・学生が多く来ないと意味がない。まじカフェも学生がもっと来るような仕掛けがいる。
伊東委員	・総合戦略から「まじカフェ」を削除してはどうか。戦略に縛られるのはどうかと思う。内容の変更ができるような書き方にしたほうがいいのではないか。
鈴木（康）委員	・アンケート結果にある東三河のイメージで「防犯・交通安全」のイメージが悪いのが驚いた。これも若者の定住に影響があるのだろうか。
伊東委員	・他地域と比べ、東三河の治安はいいと思う。ただ、治安の良さを売り物（PR）することは難しい。
松井会長	・名古屋市内でのまじカフェ等もいいが、まずは地元で力を入れたり、地元のイベントへの支援をしたりしてほしい。 ・インターンシップフェアの開催支援とは、具体的に何か。
事務局	・商工会議所のインターンシップフェアへの経費負担です。
伊東委員	・東三河の高校の卒業生へのアプローチはできないのか。
松井会長	・個人情報の関係でDMの送付が出来なくなった。会議所では「4年後（大学卒業時）に出していいですか？」と高校で聞いてもらい、「いい」と回答した生徒に案内を送付している。

	・今の学生はネットでの就活がメイン。中小企業にとっては、大手の就職サイトへの登録する費用がネックになっている。登録以外にも経費がかかり、大手企業とのギャップや溝がある。 ・SNSで地域の魅力発信を行うのもいいかもしれない。
安彦委員	・若者が出ていくことを問題にしているが、企業が東三河に残るという前提があつてのこと。豊川市のスズキの撤退など身近な事例もある。これらの対策として、市町村での取組みがあれば教えてほしい。
事務局	・産業関係で言うと、企業へ設備投資に対する支援などを行っている。企業、学生の両方を支援していきたい。
松井会長	・豊橋市で行っている奨学金の補助が良いと思う。今は奨学金を借りている学生が多く、就職後の返還が大変な学生が多い。 ・企業側は人材難が一番の悩み。
鈴木（照）委員	・愛知みなみ農協ではマイナビ登録をしているが、マイナビ登録者以外の学生は説明会や面接に来ない。また、学生が登録してくれても就職まで結びつけることは難しい。経費はかかるが、マイナビやリクナビ等に頼らざるをえない。
松井会長	・社会人キャリアアップ連携協議会や東三河広域経済連合会など、綿密な打合せをしたうえで施策を進めてほしい。
基本目標④ 安心して暮らせる地域をつくる	
西村委員	・「地域包括ケア」や「地域包括ケアシステム」について説明書きがパンフレットに記載してあるとよかったと思う。
伊東委員	・ICTやAIの活用を積極的に推進するとあるが、この事業の財源を教えてほしい。
事務局	・介護保険料が主な財源。介護保険料は介護保険給付だけでなく、様々な施策に対して使われている。
松井会長	・ICTやAI支援とは、具体的にどのようなものか。ICTやAIを推進することで、介護人材不足にどのように繋がるのか。 ・外国人人材の活用について調査研究とあるが、入国管理の問題などもあるなかで、広域連合で人材確保に向けた取組みができるのか。
事務局	・今年度のICT導入支援はお金の支援である。今年度から始めた施策のため、どれくらいの需要があるのか不明なところ。申込みが多ければニーズがあるとみて、今後の施策

	を整理する必要があると考えている。 ・センサーマットにより入所者の方の血圧管理などを自動管理、一括管理にする。それにより介護従事者の負担を軽減するといったICT機器の導入例がある。 ・外国人人材については、広域連合が主体となつてなに出来るか難しいところはある。まずは介護事業所に外国人のニーズについて調査をしているところである。
松井会長	・ほの国こどもパスポートについて、第1期、第2期と全く同じ記載なのはどうかと思う。第2期で新しい取組みはないのか。この事業が「安心して暮らせる地域をつくる」の重要業績評価指標となつてよいのか。
事務局	・ほの国こどもパスポートは今後も継続していきたい。
松井会長	・第1期で成果があったのなら、第2期でさらに内容を付け加えるなど工夫が必要ではないか。 ・「学習機会の創出ができる」「子どもが地域に愛着をもてる」工夫ややり方があるといい。
安彦委員	・観光面からみると、子どもが1人で奥三河に来られるわけではない。大人と一緒に来ることで入館者が増え、それが観光入込客数に反映されていくのでいいと思うが、もう少し書き方に工夫があるといいと思う。 ・夏休み期間に、ほの国こどもパスポートを持って新城に遊びに来てくれる子どもは増えていると感じている。
事務局	・「安心して暮らせる地域」は、高齢者支援と子育て支援が大きいと思っている。市町村でも健康施策と子育て支援施策が中核を成している。広域連合として、健康施策については介護保険者として取組みを記載できるが、子育て支援施策については子どもパスポートが現状として記載できるもの。
松井会長	・子育て支援という視点で、広域連合ができることがあると思うし、考えていく必要があると思う。
鈴木（照）委員	・「東三河ビジョン協議会が策定する東三河振興ビジョンと連携して取り組む」とあるが、東三河ビジョン協議会とはなにか。
事務局	・東三河総局が設立している協議会で、様々な推進計画を策定しているため、それと連携や整合性をとって行うということ。
鈴木（照）委員	・名古屋のにつぼんど真ん中祭りに行った。もともと学生が愛知県や名古屋市、企業を巻きこんで始めたものだと聞い

たが、今ではとても大きなイベントに発展した。

- ・ 1人1人がもつエネルギーと、時間をかけることで大きなことを成すことも可能ではないか。
-
-